

## 聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇 119：7、エペソ人 6：5「真心から」、マタイ 13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→ **6** 究極的に立証される神のすべての言葉  
真理は人生の諸問題の解決策

### 信仰生活

#### 神は今日も私たちに語っておられるだろうか？

☆神、聞き取れる声で人々に語られた → 新旧約両聖書が証し

☆神が聞き取れる声で語られることはむしろ例外、慣例ではない

「内なる声」、「心に受けた印象」であったかもしれない

#### 今日も神が語られることは確か

1. 御言葉（聖句）を通して

☆全聖書に神の御旨が包含されている テモテ第二3：16-17、イザヤ書55：11

☆私たちが救われ、信仰生活を送るために知るべきすべてのことは、御言葉の中にある

2. 印象、思いを通して、また、出来事を通して

☆私たちの良心を通して

☆私たちの心が神の思いに一致して考えることができるようにとの導きの中で

ローマ人12：2

☆試練、懲らしめ、不慮の事故等、私たちが予期しないこと、望まないようなことをも通して

ヤコブ1：2-5

3. 聞き取ることのできる声で

#### どのようにして神の声を聞き分けることができるのか？

☆サムエル、祭司エリの指示を仰ぐまでは、神の声を認識しなかった

→ 訓練を経て サムエル記第一3：1-10

☆ギデオン、啓示を受けたが、聞いたことに疑いを持ち、確証のしるしを求めた

→ 吟味、確証を経て 士師記6：17-22、：36-40

#### 聞いた声を神のものであると、確証するには？

1. 私たちには、完成した新旧約両聖書がある！

→ 常日頃から御言葉に精通する必要

2. 要求される経験的認識 ヨハネ10：27

†神に属している者であること

†神を羊飼（牧者）として知っているの、認識できる

3. 時間を割いて祈り、聖書を学び、心静かに神の言葉に黙想するとき、神は語られる

†神ご自身に時間を割くことと、訓練が必要

†神は、群衆に語られる一方で、個々人にもさまざまな方法で語られる

—ご自分の言葉を通して、聖霊を通して、私たちの良心に、状況や他の人々を通して—

## 聖書

### 「かすかな細い声」で語られた神

☆聖書の中で一箇所だけで言及 列王記第一19:12

☆預言者エリヤがバアルの預言者たちに劇的な大勝利を収めた後の出来事の中で用いられた

列王記第一18:20-40

⇒神の御働きは、必ずしも劇的な啓示や出現に伴われるものではない

神の沈黙は必ずしも、神が働いておられないということを表すものではない

☆神、預言的に「異なったパタンでのアプローチ」をエリヤに示された

☆「**権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって**」 ゼカリヤ書4:6

公然たる力の表示だけが必ずしも神が働いておられることを示すものではない

背後で、神の霊の御働きは進行している

⇒生命の源である神の霊の御働きによって、必要なものはすべて供給される

### 神の交信の手段と対象

☆神、さまざまな手段で、交信される

1. 嵐 2. 地震 3. 雷の轟のような声 4. 雷と稲妻に比較される御声で

☆対象は自然現象、預言者たち、御子イエス・キリスト

### 神がエリヤに示された「旧約と新約の神のアプローチの違い」

☆「**神は…この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました…**」 ヘブル人1:1-2

☆エリヤのミニストリー、旧約と新約の違いを画するミニストリー

†旧約の掟に象徴される、民への厳しいアプローチ

—恐ろしい声、恐ろしいメッセージ、嵐、雷、稲妻、地震— を伴って

†エリヤのミニストリーの終盤、最後の「**かすかな細い声**」でのアプローチ

⇒キリストを通しての神の穏やかなミニストリーを予兆した遠未来預言

### 今日の教会に、預言者はいるだろうか？

☆「**(教会)は使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です…このキリストにあって、あなたがたもともに建てられ…**」 エペソ人2:20-22

☆初期のキリスト者には、まだ完成した聖書がなかった

☆主は、ご自分の民に神の言葉を宣言するため、預言者を送られた

### 今日も個人的に預言が与えられることは、聖書的な概念か？

☆「このように主は仰せられます」と、個人的な忠告を与えることを「預言の賜物」として実践するカルスマ派、ペンテコテ派のキリスト者は多い

→これは、「預言の賜物」の聖書的な概念ではない

☆「預言の賜物」とは、聖霊の力により神からの啓示を宣言する能力のこと

☆新旧約両聖書で神は、預言者や「預言の賜物」を、人々に真理を顕すために用いられた

☆預言者を通して神は、人々が知る必要のある真理を顕され、時々その真理は書き留められ、それが「聖書(神の言葉)」、一神からの究極的な特別啓示—として後世に残された



旧約から新約の時代へ

## 聖書

- ☆神の言葉、聖書の完成は、「預言の賜物」の性質に影響を与えた
- ☆今日、「預言の賜物」は、神からの新しい啓示の宣言から  
「すでに顕されたことの宣言」へと移された
- ☆私たちが依存すべき唯一の啓示は、完成された御言葉「聖書」で、そこに保障がある
- ☆神の言葉は私たちが知る必要のある真理をすべて包含
- ☆私たちには、内住の聖霊がおられ、導き、慰め、教えてくださいヨハネ14：16、：26
- ☆神がだれかを他の人の人生に関する洞察を与えるために用いることはあり得るが、  
これは、神がご自分の民と交信される通常の方法ではない
- ☆キリストを信じる者たちは互いに、他の人の将来の見通しや見分け、励まし、熱心な勧めを提供することができる  
しかし、今日、神からの直接の預言はめったに起こらない
- ☆今日、クリスチャン文化圏で預言が乱用され、誤解されていることを認識することは大切  
ヨハネ第一4：1の警告、テサロニケ第一5：20-21の宣言

### 神は今日もなお、ビジョンを与えてくださるだろうか？

- ☆神は人々に幾度となく、ビジョンを通して語られた
- ☆預言者ヨエルはビジョンのほとばしりの到来を預言、使徒ペテロ、この預言の始まりを確証
- ☆今日、この世の多くの地域で、神はビジョンと夢を大きく用いておられる
- ☆福音のメッセージがほとんど、あるいは、全く伝えられていない地域、人々が聖書を手に  
入れることができない地域で、聖霊は力ある働きをしておられる
- ☆このことは、聖書の例、一キリスト信仰の黎明期に、人々にご自分の真理を顕すために、  
神は頻繁にビジョンを用いられた— に一致
- ☆鍵となる真理：「ビジョンは神がすでに与えられた御言葉に完全に一致し、ビジョンが、  
御言葉の権威にまさることは決してない」
- ☆神はビジョンを与えた後、その意味、解釈を隠したままにされることはない  
与えられた解釈を御言葉に照らして吟味、聖書に一致しているかどうかを確かめる必要がある

### 今日、世界で起こっていることの聖書的見解

『ハバクク書』からの学び

- ☆主要テーマ「なぜ善良な人たちに災い、悪いことが起こるのか？」
- ☆中心となる聖句「正しい人はその信仰によって生きる」(2：4)
- ☆ハバククを困惑させたのは、経験と啓示との明らかな食い違い
- ☆預言者エレミヤやダニエルと同世代

#### 1章 苦情：神の民の罪

- ：2 預言者ハバクク、一反逆の民の中の数少ない「良心ある者」— 神の民の悪徳に悩む
- ：3 暴行、闘争に明け暮れている民、それなのに、主は何もしようとされない
- ：4 疑問、— 「もし神がおられるなら、なぜ悪がはびこるのか？」— と葛藤する預言者
- ：5-11 神の答え：カルデヤ人をご自分の民ユダを討つ、懲らしめの道具として用いる

聖書

1:12-2:1 **苦情：不可解な神**

:12 ハバクク、神を理解しようと努め、真実な神はご自分の民を必ず守ってくださると結論

2章

:1 ハバクク、エルサレムの城壁に行き、神の答えを待つ

高い視点から世の現状を見る預言者は「見張り人」

**困難に直面したとき、鍵となる姿勢**

1. 今、決断し実行する    2. 神の声を聞く    3. 神に依存、期待する

2-4節 **神の答え：忍耐ある信仰は報われる**

:4 正しい者は生き残る

1. 道徳的に耐え忍ぶことによって
2. 信じ続けることによって

5-19節 **背信の都に見られる五つの忌むべきこと**

①おごり高ぶり、②むさぼり、③暴虐、残虐、④無慈悲、⑤偶像崇拜

**国家衰退の三段階**

1. 霊的背信    2. 不道徳    3. 無法、無政府状態

すべてが霊的背信 一生ける真の神から離れること— から始まる

:13-14 神の究極的な御目的、—真髓となる真理の啓示—

「全世界が真の神を知るようになるため、すべては神の御旨によって許されている」

:20 主は「わたしは御座に着いている。静まれ。わたしに信頼せよ」と言われる

3章

:17 目に見えるところがどんなに絶望的であっても、主にあって喜ぶ

:18 直面している問題、困苦を喜ぶのではなく、主を喜ぶ

ハバクク、神と神の民の歴史を振り返り、沈思したとき、すべての神の行為は、

「**ご自分の民を救うため**」(13節)であった！

この神の愛に開眼、預言者、「**私の救いの神にあって喜ぼう**」と信仰表明

⇒ハバクク、自分が最初に投げかけた疑問に答えを見いだした

---

**現実問題への適用**

★神は、敵勢を用いてご自分の民を討ち、辛苦、艱難を通して民を聖められる

★神の敵とは神に反逆、神と神の民に挑戦する「偽りの霊」、サタンを頭とする悪霊組織のこと

★神は、この世のマスコミが隠しているこれら偽りの霊による組織の正体、—その残虐性、

殺人が目的— を暴露することによって、全世界に、サタンの本性を知らされる

★この世は、ますます見通しの立たない災いの「とき」に突入していくが、

現状がどのように絶望的であっても、支配しておられるのは神

★今が、しばしの福音宣教のチャンス、特に、未来を担う若い世代への福音宣教が必須課題

★悪霊組織に見られる「分裂によってやがては立ち行かなくなるサタンの国」の実情